



広島県公立大学法人

叡啓大学

資料提供

令和7年6月23日

所属：広島県公立大学法人

叡啓大学教育企画課

担当者：細川

連絡先：082-225-6312

環境配慮型テイクアウト包装「シュリンテックエコ」

共創プロジェクトをきっかけに、学生が学食でテスト導入を企画・実施

叡啓大学（学長：有信睦弘、所在地：広島市中区）では、2025年6月23日（月）～27日（金）にかけて、環境配慮型の食品包装技術「シュリンテックエコ」のテスト導入を学内食堂で実施いたします。

この取組は、2024年度「共創プロジェクト」にて株式会社シンギと連携し、シュリンテックエコの普及と実装可能性について学生が取り組んできたものです。プロジェクト自体は2025年3月に終了しましたが、学生は引き続き主体的に活動を継続し、今回のテスト導入に至りました。今回は、食品包装による環境負荷の軽減と、大学構内におけるテイクアウトの可能性を探ることを目的としており、学生・教職員・企業が連携し、実運用に近い環境での検証を行います。

皆様のご取材を心よりお待ちしております。

1 実施概要

期間：2025年6月23日（月）～6月27日（金）12:00～14:00

場所：叡啓大学 学食内特設スペース（広島市中区幟町1-5）

対象：テイクアウトを希望する学生・教職員

利用者が食券を購入後、専用容器に盛りつけた料理を「シュリンテックエコ」の機械でシュリンク包装し、テイクアウト提供します。

2 取組の目的

- ① 学内におけるテイクアウトニーズの再確認
- ② 環境に配慮した包装技術の受容性や実用性の検証
- ③ 実施後のアンケートを通じた反応分析と課題の可視化

さらに本プロジェクトは、大学発の社会課題解決モデルとして、将来的な学内実装や他大学・企業・公共施設への展開可能性を視野に入れたものです。

3 今後について

今回のアンケート結果や現場でのフィードバックをもとに、さらなる改善・検討を重ね、持続可能な食文化や環境配慮型生活スタイルの学内実装に貢献してまいります。



昨年度の共創プロジェクトの様子

取材いただける場合は、お電話又はメールでご連絡ください。

叡啓大学広報担当（日浦）

TEL:080-9208-0466

メール:publicrelations@eikei.ac.jp



— Client —



行動力×発想力で、
新規事業の課題解決に

| Client |

株式会社シンギ

| Theme |

減プラに寄与する
新しい容器フィルム蓋デバイスの活用支援

| Outline |

多様な容器をフィルムで密封し、プラスチックフタの削減と在庫負担の軽減を同時に実現するフィルム蓋デバイス「シュリンテックエコ」。普及拡大を目指し、ユーザー視点や費用対効果も含めた販売手法を検討し、環境負荷軽減を目指すプロジェクトです。



Student members



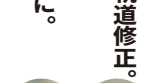
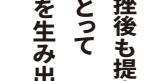
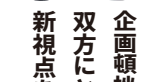
Client members



— Student —



企画頓挫後も提案力で軌道修正。
双方にとって
新視点を生み出す機会に。



弊社では新規事業として、環境配慮型容器「シュリンテックエコ」の製造機械を開発・テストをしています。「シュリンテックエコ」とは、紙・プラ・金属と容器を選ばずにフィルムでフタをすることが出来る機器で、一般的なプラスチックのフタと比べて省スペースで、プラスチックの重量も約1/3と、環境に配慮しています。今回のプロジェクトに参加した目的は、どうしても事業者目線になってしまいう販売戦略について、違った目線からの意見や提案を取り入れたいと思ったからです。

本プロジェクトを進める中で、まず学生に対して感心したのは圧倒的な「行動力」でした。アイデア出しをした後、大学内をはじめスーパーマーケットや飲食店など、現場へのフィールドワークを積極的に行ってくれ、店舗スタッフから消費者までの意見を丁寧にヒアリングしていました。また、そこで受けた実際の需要や課題をもとに、現実的かつ具体的な提案へとつながっていく行動力も持ち合わせていたと思います。

またアイデア出しにおいても、惣菜などのテイクアウト商品をはじめ、機内食、医療用キットなど多角的な視点を持つことがわかりました。中でも、被災地での活用案は企業側では思いつかない学生ならではの発想で、貴重な意見をいただけたなと感じました。現在は最終段階として、サラダ専門店へモニタリングを依頼し、テスト導入へ向けての調整を進めています。

今回のプロジェクトで特に実感したのは、学生の課題解決能力が特に発揮されるのは新規事業への課題解決だということ。社内でも行き詰まっていた課題の方向性が定まり、学生の行動力のおかげで、新しい風を取り入れながら具体的に進めていくことが一番の収穫だったと思います。

申 私は企業との協働経験を積むことに加え、この協働テーマを通して環境問題へのアプローチができると思ったのが参加理由の一つでした。

隼田 私は留学していた韓国で、デリバリー文化と減プラの取り組みを身近に感じていました。その経験を活かしながら、社会の動きを知る機会になればと思い、参加しました。ただ、最初は発言するのが難しかったです。

山崎 そうですね。グループ内で2年生は隼田さんだけでしたし、発言しにくい場面もあったかもしれませんが、発言しにくい場面もあつたかもしれません。でも、少人数にチーム分けをして進めていったこともあり、積極的に話してくれるようになりました。

吉田 私も最初は手探りでしたが、定例ミーティングに向けて、毎回何かしらの成果を出すことを意識していました。手応えのあったアサイーボウルのアイデアが頓挫してしまいました。が、サラダボウルの提案に切り替えたことで、企業の方から良い反応をいただけて自信になりました。

隼田 企業の方々は堅いイメージがあつたのですが、会社見学やミーティングでお会いしたシンギの方々は楽しんで仕事をされており、私たちのアイデアに対しても前向きなフィードバックをくださったのが印象的です。

吉田 その反面、クライアントの期待と、私たちが提供できるもののギャップを埋めるのは難しかったです。が、何度もフィードバックをもらうことで、求められているものが明確になっていきました。

隼田 プロジェクトを通して学んだことは、自分の会社に関わる知識だけでなく、社会を取り巻くあらゆる事柄や問題点について、知識や意見を持つべきだということです。

申 シンギの方々を見て、「働く＝ポジティブ」な印象が変わりました。私も社会人になったら志を持って「仕事」をしていきたいと思いましたよ。

山崎 また、私たちも企業側へ学生ならではの行動力・提案力を発揮できていたかと思っています。このプロジェクトがシンギの方々にとって価値のある成果となっていたら嬉しいです。